

事後評価書

事業名	朝日中央線	事業区分	街路事業	課名	都市政策課
事業概要	工期 (下段:前回)	平成7年度～平成20年度	全体事業費 (下段:前回)	2,731百万円(負担率:国0.55:県0.28:町0.17)	
		平成7年度～平成18年度		2,397百万円(負担率:国0.55:県0.28:町0.17)	
事業目的 及び内容	<p>■当該事業区間の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路朝日中央線は、国道1号北勢バイパスを起点として朝日町の中心地を横断し、桑名都市計画道路桑部播磨線へ連絡する都市内幹線街路です。 ・そのうち事業区間は、朝日町役場付近からJR関西本線を跨線橋で立体交差して白梅の丘交差点に至る延長750mの区間になります。 ・小高い位置に土地区画整理事業による新しい住宅地が計画されていましたが、旧市街地との行き来には踏切や幅員の狭い県道などを通る必要がありました。 ・また、歩行者も踏切を渡る必要があったり、周辺道路にも歩道が整備されていなかったため、通学児童を含 <p>■事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR関西本線を立体交差する跨線橋を整備することで、新しい住宅地と旧市街地を結び地域活性化を促進させます。 ・また、歩道整備により歩行者の安全性向上を図ります。 <p>■事業の内容</p> <p>事業期間 平成7年度～平成20年度(14年間) 総事業費 2,731百万円 事業延長 L=750m 道路幅員 W=16.0m</p>				
1. 事業の効果					
1-1. 費用対効果分析					
<p>■費用対効果分析の結果は、</p> <p>走行時間短縮便益 109億円 走行経費減少便益 23億円 交通事故減少便益 4億円 総便益 137億円 総費用 38億円 費用便益比 3.6</p>					
1-2. 費用対効果分析の検証					
<p>・交通量 平成37年の推計交通量8,500台/日に対して平成23年の実測交通量は7,400台/日になります。今後、連続する桑部播磨線の供用や新しくできた住宅地の人口増加などが見込まれることから約1,000台/日増加することが予想されます。</p> <p>・交通事故 並行する県道と町道及び朝日中央線の死傷事故件数は、供用前後で約1件/年減少しました。</p>					
1-3. その他の効果					
<p>・地域活性化 事業区間周辺において土地区画整理事業が実施され、大型スーパーや病院などが立地し、人口が急激に増加しました。 土地区画整理と一体となった街路を整備して地域活性化に貢献しました。</p> <p>・防災機能の向上 みえ川越ICから朝日町中心部へのルートは津波浸水域のため、当該道路はみえ朝日ICから朝日町中心部への主要な支援ルートとなります。</p> <p>・救急医療活動の支援 JRより北側の地域について、踏切を横断する必要がなくなり、北勢BPへのアクセス性も向上し、円滑な救急医療活動を支援している。 消防署の方からは、踏切段差がなくなり応急措置に適した道路であるという声や、狭い町道や踏切を避けることができ搬送時間の短縮につながっているとの声をいただいています。</p> <p>・安全性の向上 当該道路は、小学校の通学路に指定され、以前のように歩道のない幅員狭小区間の踏切を横断する必要がなくなり、安全性が向上しました。 小学生の子供を持つ周辺住民からは、踏切など通学時に危険な場所を通る必要がなくなり安心という声をいただいています。</p>					

2. 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	
<p>2-1. 環境面への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺住民への配慮 橋梁部において遮音壁、低騒音舗装を採用し、周辺住民への配慮を行いました。 <p>2-2. 環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・供用前後の環境調査の実施 環境調査の結果、騒音・大気質・振動・低周波空気振動のすべてについて環境保全目標を達成しています。 	
3. 事業を巡る社会経済情勢等の変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・当該事業周辺では、土地区画整理事業が実施され、平成17年から平成22年にかけて、朝日町の人口増加率が全国市町村の1位(+35.3%)となりました。(国勢調査) 	
4. 県民の意見	
<p>■アンケートの方法</p> <p>沿道住民を対象にアンケート調査を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査方法：アンケート票を各戸に配布 ・調査数：2,000票（周辺地区の一部の住民） ・有効回答数：889票（回収率44.5%） <p>■アンケート結果</p> <p>総合的な評価では、80%の方が『満足』と感じています。</p> <p><input type="checkbox"/>満足している点の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏切を渡らないで安心して走行できる。 ・渋滞がなくスムーズに走行できる。 ・高速IC・国道1号（北勢バイパス含む）へのアクセスが便利になった。 <p><input type="checkbox"/>不満を感じている点の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピードを出す車が多い。 ・歩道に防護柵等の安全対策を実施してほしい。 	
5. 再評価の経緯	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度の再評価において、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続が了承されました。 ・ただし、階段歩道の設置に当たっては、階段があることで歩行者が引き返すなど利用者に不自由となることが想定されるため、利用者への配慮が必要であるとの意見を受けました。 ・そのため、手前の信号交差点部に「この先階段あり」という注意喚起看板を設置して、利用者への事前周知を行いました。 	
6. 今後の課題等	
<ul style="list-style-type: none"> ・街路事業は都市内において実施する道路の改築事業であり、市民生活や経済活動等に伴う交通の円滑化を図るのみではなく、災害時などに活用できる道路としての機能強化、都市の基盤として「まちづくり」に大きく寄与する重要な役割を担っています。 ・このため、今後も引き続き、これら多岐にわたる事業効果を考慮しつつ、事業箇所の重要性、緊急性を勘案しながら、計画的な整備を推進していきます。 	

